

紀南病院広報誌

第21号

平成22年7月

つながり

紀南病院スローガン(22年6月～) 笑顔が何よりの良薬



■病院理念

紀南病院 脳神経外科

優しく、温かい、確かな医療を提供し、紀南の環境文化に根ざした地域連携の充実に努めます

■基本方針

1. サービス精神 (KINAN) の徹底—— (K)気持ちこめて、(I)いつまでも、(N)納得のいく、(A)安心して安全な、(N)任務の遂行
2. 患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明を励行
3. 生活の質の向上 (QOL: quality of life) を中心とした診療と援助
4. 行政や医師会と協同した地域医療の向上 (救急医療・高齢者医療・健診・地域連携・福祉など)
5. 職員研修の強化と遠隔地医療教育の必須化
6. 職場環境の改善と健全な病院経営に基づく医療環境の提供

子宮頸癌について

産婦人科医師 前 沢 忠 志



近年、子宮頸癌のワクチンが発売され、ニュース等でも報道されるようになってきました。そこで今回は、子宮頸癌について紹介させていただきます。

子宮頸癌の原因は、「ヒトパピローマウイルス」というウイルスが原因だということがわかっています。通常は感染しても90%の人は自然に排除されますが、10%の人が持続感染し、そのなかの1%の人が子宮頸癌になるといわれています。子宮頸癌は、前癌病変である異形成の状態を経て、上皮内癌、浸潤癌と進行していきますが、異形成、上皮内癌の段階であれば、円錐切除術といって、子宮の出口部分だけを切除する手術で治療は終了します。手術時間も20分程度で終わり、今後の妊娠も可能です。しかし、浸潤癌の段階にまで進んでいると、広汎子宮全摘術という非常に大きな手術が必要になります。これは、5時間以上かかる手術であり、排尿障害やリンパ浮腫等の合併症の頻度も高いです。このように子宮頸癌は、どの段階で発見されるかによって、手術の大きさ、予後も大きく変わってきます。

子宮頸癌は初期には特に自覚症状が無いため、自覚症状の不正出血がみられて受診する頃にはかなり進行していることもあります。子宮癌検診は、自覚症状のないごく早期の癌を発見するための非常に有用な検査です。そのため、1年に1回は癌検診を受けることを、強くお勧めします。

最近発売された、子宮頸癌ワクチンについてですが、これは初回、1ヵ月後、6ヵ月後の3回接種することで、約20年間は十分な抗体価が維持されることが期待されています。これは新規のウイルスに対する効果は期待できますが、既に感染しているウイルスに対しては効果がありません。前述のように90%は自然に排除されるので、性交のある年齢の女性には効果は期待できます。また、このような理由から、性交経験のない10歳以上の女性に接種が勧められ、また10~15歳時の接種が最も抗体価の上昇が高いといわれています。

ワクチンの効果は100%ではありませんので、定期的な検診は必要ですが、もし発症しても早期に発見すれば、短い手術で治療は終わりますので、みなさん検診は必ず受けましょう。



特集『ドクターヘリ・防災ヘリ』

過去のタウンミーティングにおいて、住民の方から質問が多かった、『ドクターヘリ、防災ヘリ』を特集します。

ドクターヘリとは？

病院の医師・看護師が搭乗し、直接救急現場に向かう救急医療用ヘリコプターです。三重・紀南地域には、和歌山県立医科大学付属病院（和歌山市）から、要請後30分程度で飛来します。和歌山県全域と約100キロ内の奈良県南部・三重県南部が活動エリアで、三県が共同運用しています。救命資器材を積載しているため、すぐに医師の治療が受けられます。主に重篤・専門的処置が必要な場合、早急な転院が必要な患者さんを対象としています。消防本部又は医師が要請します。



防災ヘリとは？

三重県所有の消火・救助などの防災用のヘリコプターで、防災航空隊の隊員が乗っており、救命資器材は積載していません。救急の場合は、救助した後で専用ヘリポートのある病院に搬送や救急隊に引継いだり、緊急を要する転院搬送をしています。転院時は要請の医師が乗り込みます。三重県では津市から要請後30分程度で飛来可能で県内を活動エリアとしています。消防本部が要請します。

Q & A 疑問点を熊野市消防本部・岡田消防救急課長さんにお聞きしました。



お答えいただいた
熊野消防・岡田消防救急課長

Q1 紀南地域では、どこにヘリが着陸できるのですか？

A 熊野市有馬町の救急ヘリポート、各地の学校グラウンドなどあらかじめ指定された場所に着陸します。なおドクターヘリは災害現場近くの広場などにも着陸が可能です。

Q2 どの病院に運ばれることが多いですか？

A ドクターヘリならば和歌山県立医科大学付属病院や田辺市の南和歌山医療センターがほとんどです。防災ヘリでの転院は、山田赤十字病院（伊勢市）、三重大学医学部付属病院（津市）など県内の高度医療機関が多くなっています。

Q3 利用した場合、患者さんが負担する料金はいくらくらいですか？

A ヘリ運行費用については無料ですが、医師・看護師の医療行為（診察、処置、薬剤など）については、保険診療分の自己負担が発生します。

Q4 患者さんから直接、ヘリの出動を依頼できますか？

A 現場の救急隊判断による消防本部からの要請や、医師による転院要請によります。患者さんからの直接依頼はできません。なお、三重県でもドクターヘリの導入が検討されています。

Q5 夜間の利用は可能でしょうか？

A 夜間や荒天時は、視界不良により飛行しないため利用できません。

熊野消防から

ドクターヘリ、防災ヘリの特徴の一つは、重症の患者さんを、遠方の高度救急病院に短時間で搬送できる点です。しかし、利用できる条件に一定の基準があり、要請の判断は、現場の救急隊又は医師に委ねられております。住民の皆様の、ご理解とご協力をお願い致します。

『三重医療安心ネットワーク』が稼動

—— インターネットで診療情報を共有 ——

7月1日より県下6病院間の医療情報がインターネットで結ばれました。6病院とは、

**三重大学附属病院、三重中央医療センター(津市)、鈴鹿中央総合病院、
松阪中央総合病院、済生会松阪総合病院、紀南病院**です。

患者さんの同意をいただいた上で、処方内容、検体検査結果、画像等の情報が、病院間で共有されます。患者さんにとりましては、より正確で詳細な情報が即時に提供され、病院が変わっても、一貫した治療を受けられるというメリットがあります。

このシステムの導入には三重大学附属病院の櫻井洋至・安積良紀(元紀南病院)両先生のご尽力がありました。当紀南病院は遠隔地の病院ですが、電子カルテを早くから導入していたことにより、指定を受けることができました。『三重医療安心ネットワーク』の名称は、当院久保事務部長の提案が採用されたものです。

今後、情報開示病院としては、6病院以外にも、がん診療連携拠点病院などを中心に拡充してゆく予定です。

また、情報開示病院の医療情報を閲覧できる医療機関については、インターネット回線のある医療機関であれば、どこでも登録できるため、こちらも拡大してゆく予定です。

＊『三重医療安心ネットワーク』に関する問合先

紀南病院地域連携室 または

三重県地域医療連携連絡協議会事務局(三重大学病院内) 052-232-1111 (内線 5736)



紀南病院組合議会 3月定例会報告

去る3月25日、紀南病院組合の定例議会が開催されました。識見を有する監査委員に下田文男氏(御浜町在住)が引き続き選任承認されました。

人事院勧告による給与条例等の改正、地方交付税の増額による市町負担金の増額、新型インフルエンザにかかる補助金の受け入れ、人工呼吸器等の購入等の補正予算が承認されました。

平成22年度予算につきましては、昨年度に引き続き赤字予算案が提案されました。赤字見込み額は1億1千3百万円(内「きなん苑」は3千1百万円の黒字)で承認されました。この予算は前年と比較すると8千9百万円ほど赤字額が縮小となっています。

本年度は秋ぐらいから中央館の耐震補強工事を予定しています。



研修医だより

丸山千枚田で田植え、畦塗り体験

今年から三重県地域医療研修センター（通称：めっちー ※注）として紀和町丸山千枚田の一口オーナーになりました。早速、畦塗り、田植えに研修医が挑戦しました。

ほとんどの人が未経験で、最初は皆へっぴり腰でしたが、千枚田保存会の皆さんに指導いただきながらだんだんうまく作業ができるようになりました。最後は自分のところだけでは飽き足らず、



他のオーナーさんのところもお手伝いしてきました。「重労働でしたが、天気に恵まれ、良い汗を流し楽しかったです。」との感想でした。

秋には収穫の作業があります。自分たちで汗を流して作ったお米を食べることを皆楽しみにしています。

※注 Mie Education and Training Center for Community Health
の頭文字で、「METCH めっちー」



21年度 新宮医療センターとの「画像転送診断システム」報告

平成19年4月以降、紀南病院・脳神経外科医師の撤退により実施している、新宮市立医療センターとの「脳関連疾患画像転送診断システム」の21年度件数がまとめ、過去2年間と比べて、大幅に減少したことがわかりました。

脳関連疾患画像転送診断システムの年度別利用件数と患者さんの転帰（実人数）

	総件数	転帰 の 内 訳	新宮医療センターへ 搬送した件数	搬送せず紀南病院で 治療した件数	それ以外の病院へ 搬送した件数
19年度	80件		41件	36件	3件
20年度	89件		41件	48件	0件
21年度	35件		19件	14件	2件

総件数が減少した理由は、21年度から紀南病院脳神経外科に仲尾貢二医師が赴任されたことで、新宮医療センターに判断を仰ぐ必要性が減少したことによると思われます。ただ、大きな手術は一人の医師ではできないため、そういった患者さんは新宮に搬送していただくと同時に、画像も転送しております。

脳外科の常勤医師がいることで、大きな手術を必要としない脳関連疾患の患者さんならば、紀南病院で治療を続けられることが多くなったことがわかります。



*脳関連疾患画像転送診断システム……紀南病院へ受診された脳関連疾患の患者さんの頭部画像（CT・MRIなど）を新宮市立医療センターにケーブルテレビ回線で送り、医療センター脳外科医師に搬送の必要性や治療方針などを判断していただくシステム。

紀南の皆様へ離任のご挨拶

三重大学医学部医学・看護学教育センター

武田 裕子



毎週木曜日午前中の内科外来を3年近く担当させていただきましたが、この9月から英国に留学するため紀南病院を去ることになりました。温かくご支援くださった皆様に、心よりお礼を申し上げます。

私は、三重大学に三重県の寄附で地域医療学講座が開設された2007年に、招聘を受けて三重県に参りました。大学卒業後、身近な医療であるプライマリ・ケア（総合内科）の医師を目指して米国で研修を受け、2000年から5年間は沖縄の琉球大学で地域医療部に在籍して、離島医療から地域医療について学ぶ機会を得ました。その後、東京大学で国際協力の世界に初めて触れ、地域医療と国際保健に多くの共通点があることに気付きました。そして、この紀南では、コミュニティガイニシアティブを発揮して健康を手に入れるという先進的な取り組みを見せていただき、地域医療により深く触れる機会をいただきました。ありがとうございました。

私は外来のみの担当でしたので、それほど診療に貢献することはできませんでしたが、外来で出会った患者の皆さまから、たくさんの励ましを頂戴いたしました。ある患者さんのご家族が「その日は満月だから漁に出ないので外来に連れてこられる」と言われた時には、「地域」医療を実感しました。

紀南病院では、私は本当にお世話になるばかりでした。私の専門とする地域医療教育は、まさに、地域のなかで地域の皆様に教えていただく教育ですが、いつも快く医学生や研修医を受け入れて、医師のみならず職員の皆様が熱意をもってご指導くださいました。それは、今に至るまで変わっていません。医学生・研修医は、また何よりも、患者やそのご家族の皆さまから温かく接していただいて、地域で働くことの楽しさややりがいを学んでいます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

紀南病院、医師会の先生方、消防、行政の皆様が協力して進めておられるタウン・ミーティングに参加の機会を得たことも、私にとってはかけがえのない体験となりました。寒い夜に公民館のストーブを囲んで、住民の皆様の忌憚のないご意見や、「まずは自分たちでできることを」という決意の言葉をお聴きして、地域が健康であり続けるために何よりも必要なのはコミュニティの自主性であると実感しました。紀南には、15年ほど前に「紀南地域母子保健医療推進協議会」が発足して活動を続けられており、毎年、JICAの研修生がアフリカから見学に来られるほどであるというのはお聴きしていましたが、このタウン・ミーティングもすばらしい取り組みです。講演の機会を頂くたびにご紹介し、去年は、きなん苑でソーシャルワーカーをされている大久保さんに、その活動を論文にまとめていただいて「プライマリ・ケア」という学術誌で全国に向けて発信してもらいました。これまで、タイ、ラオス、タンザニア、アフガニスタンという海外の大学の先生方にも、参加していただきましたが、皆さんとても感銘を受けて帰られました。

遊木地区を訪問した際に教えていただいた、大災害時の対応に関する取り組みにも、地域の力を感じました。ここには、ニューメキシコ大学の救急部長で、米国の災害医療の第一人者であるマイケル・リチャーズ先生をお連れしたのですが、本当に感動されていました。

「自分はこれまで、災害に備えることの大切さを全米各地でずっと訴えてきたけれども、実際に住民の方が取り組まれているのを見たのは初めてだ。自分の言ってきたことを、住民の方々が自ら実践されているのを見ることができて、これからもあきらめずにこの活動を続けようという気持ちになれた。すごく励まされた。」と言われていました。米国の専門学会で、遊木の取り組みを紹介する講演をされたところ、主催者がその講演をDVDにして参加者全員に配布されたとのことでした。

病院ボランティアの山路セイさん、西恵子さん、二村恵美子さんには、「模擬患者ボランティア」になっていただき、学生・研修医教育、指導医研修にご協力くださいました。紀南病院の職員研修では、「お見舞いに来た患者の家族」という役で、病院のなかで道を尋ねる演技をしていただいたことが懐かしく思い出されます。

紀南では、また、紀南病院の外科病棟の看護師さんたちの願いで、がん患者さんとそのご家族をサポートする「和みの会」が昨年スタートしました。少しでもお手伝いさせていただきましたが、参加される皆様に喜ばれる会に育つ様子を間近に拝見できて、とても嬉しかったです。

このすばらしい紀南を多くの先生方にみていただきたいと、様々な大学から先生方をお招きしました。筑波大学の田宮奈菜子先生には訪問看護の見学とご指導を、東京大学の高橋都先生には緩和ケアのご講演をいただいて患者会発足に向けてのご助言をいただきました。海外からも、カナダ・マギル大学、アラブ首長国連邦・シャルジャ大学、タイ・コンケン大学、ラオス・健康科学大学、タンザニア・ムヒンビリ健康科学大学の先生方、そして前述のニューメキシコ大学のリチャーズ先生にいらしていただいて、紀南病院主催の講演会等を多数開催していただきました。コンケン大学、シャルジャ大学からは学生さんたちも実習に見えました。心を込めて働かれている医療従事者の姿と熊野の豊かな自然とを心に刻まれていました。このような交流の背後にはいつも、病院長野口先生の情熱、久保部長の温かなご配慮と明るい奥様のおもてなし、三石係長の誠実な心配りがありました。また、育生・神川診療所の塩貝陽而先生には、資料まで用意して流暢な英語でご講義くださり、集落のご案内をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。そうそう、絶品の地中海料理で驚かせてくださった「クスクス」のシェフと、とびきり新鮮でおいしい魚料理を提供してくださった「ぼくしょう」の大将にもお礼を申し上げなくては！

9月からは、「国際保健・国際協力」分野で教育・研究の歴史があるロンドン大学大学院で学び、大きな枠組みの中で地域医療を捉えなおし、地域医療の発展と保健医療人材育成に役立つ研究をしてまいります。自分にとっては厳しいチャレンジとなりますが、紀南でいただいた様々なご厚意に何らかの形でお返しができるように、頑張りたいと思います。

美しい神川の桜、大井谷のホタル、熊野の大花火大会、松本峠からみた七里御浜、ワイドビューの車窓に映る四季折々の自然の移り変わり、思い出は尽きませんがこの辺で筆を置きます。紀南の医療を支えていらっしゃる医師会の先生方、仲間に加えてくださった紀南病院の先生方・職員の皆様、地域医療学講座を応援してくださった熊野市河上市長と御浜町古川町長、ご指導くださった紀宝町の二村先生、海外からの訪問者の通訳を快く引き受けてくださった古川さん、励ましの言葉をくださった地域の皆様、本当にありがとうございました。



第6回「和みの会 (紀南病院がん患者の会)」を開催 (4月24日)

今回のプログラムは、2年前まで当院内科で勤務されていた鈴木孝明先生（現在は志摩地域医療福祉センター長）のハープと二胡の演奏、そして当院看護師の松平克己さんと鈴木先生のデュエットという癒しのコンサートでした。患者会スタッフの出演依頼に、遠方から快く駆けつけていただいた先生のコンサートは、会場に集まった全員（患者さん、ご家族、スタッフ）で寄り添いながら作り上げるという感じの心温まるものでした。最後に三重県地域医療研



修センター長の奥野正孝先生からもお話をして頂き、地域住民の方達との交流を深める事が出来ました。

会場内には、ボランティアの畑中典子さんに作っていただいた帽子も展示し、希望者には無料で提供され大好評でした。この帽子はタオルで手軽に作れて、洗濯もできるということで全国的にもマスコミで取り上げられています。脱毛などでお困りの患者さんで帽子を希望される方は外来点滴治療室に申し出て下さい。

次回の「和みの会」は、理学療法士による「簡単なリラックス体操」で、8月7日土曜日14時からの予定です。

ミニタウンミーティング in 木津呂(5月19日) in 阪本(6月9日)

木津呂会場（熊野市紀和町）には住民12名、阪本会場（御浜町）には住民20名の方がお越しになりました。市町の福祉課長、紀南病院研修医の先生方や三重大医学生も同席し、住民の方々と奥野正孝紀南病院内科総括（三重県地域医療研修センター長）との質疑応答で、なごやかな時間がありました。



との質疑応答で、なごやかな時間がありました。

話題は、不眠・便秘・体重増減・カロリー・運動・骨粗そう症・膝痛・早朝高血圧・コレステロール・肺炎球菌ワクチン・紀南病院の診療体制、等に及びました。

MBZが『楯ヶ崎(熊野市) 散策ツアー』

紀南病院MBZ（魅力ある病院づくり実行委員会）主催の『春の楯ヶ崎散策ツアー』が、快晴の5月22日(土)に、研修医、職員家族ら21名が参加して行われました。





缶ビール

奥野正孝

夏江ばあちゃんが倒れた。夏江ばあちゃんは、若い時に島を出て、近くの町で、ずっと旅館の女中さんをしていたが、数年前に息子のいる島に帰ってきていた。島を離れ、長い間街で暮らしていたので、なかなか島の暮しに慣れなくて、身勝手な振舞いが多くて、息子の嫁さんとはうまくいっていなかった。

脳卒中と診断した私は、ばあちゃんを本土の大きな病院にお願いした。幸い、命には別状なかったが、手足はまひし、意識はなかなか戻らなかった。入院二週間後、いわゆる"寝たきり"状態になって島に帰ってきた。意識は少し戻っていたが、呼びかければ目を向ける程度で表情は虚ろであった。

ばあちゃんの家は釣り宿で、嫁さんが宿屋のおかみさんとして、家を取り仕切っていた。ばあちゃんのベッドが、みんなが集まる居間の南向きの日当たりの良い窓の横に置かれた。「えらいことになったなあ」と、私と看護婦さんが口を揃えて言った。「そんなことあらへん」と、嫁さんは明るく返事はしたものの目は下向き加減だった。

その日から、嫁さんの大奮戦が始まった。家族のみんなも手伝ったが主役は嫁さんだった。島の嫁さんだから、力は強く、ばあちゃんを持ち上げるのは簡単だったが、点滴の管理、床ずれの処置など、いままで見たこともないことに取り組まなければならなかった。看護婦さんも私も毎日往診し、手とり足とり必要なことを教えた。しかし、嫁さんが話しかけ、着替えをさせ、体を拭き、下の世話をしているも、ばあちゃんの視線は嫁さんに向くことはなかった。

しばらくたったある日、嫁さんが「ばあちゃんが笑うたよ」と、とっても嬉しそうに言った。そんなに、意識が戻るはずがないと考えていた私は驚いた。その日から、嫁さんはおばあちゃんを相手にするのでなくて、まるで小さい子供を世話するように振舞った。その後、床ずれがひどくなったり、膀胱炎を起こしたり、いろんなことがあったが、お嫁さんは敢然と立ち向かっていった。退院してきた時には、数カ月しか持ちこたえられないと考えていた私だったが、私が島を去るまでの1年半、ばあちゃんは立派に生きた。



それから2年が過ぎた夏、例年のように島に行った私は、青年団の連中と盆の行事の一貫としての夜店の手伝いをして焼鳥を焼いていた。そこへひょっこりとその息子と嫁さんがやってきた。息子が「先生、ありがとう。ばあちゃん、今年死んだわ。」と言った。そんなに命を長らえたのかとびっくりしながら、私は「そう、よかったなあ」と労いともつかない返事をした。「うちのかあちゃん、ようがんばったもんなあ」と息子は続けた。横では嫁さんが晴れ晴れとした顔をして

立っていた。その笑顔の中には、ばあちゃんのお世話から解放されたうれしさもさることながら、自分達で看取ったという自信と喜びがあふれていた。私は「今度は、島の人らに色々教えてやってよ。みんなの先生になってよ。」と嫁さんに言った。嫁さんが返事をする前に、息子が「うん、まかしとけ」と返事をし、嫁さんが横で話した。

「大サービス！」と言って焼鳥をわたそうとしたら、それより早くふたりの手から、冷たい缶ビールが2本私の手のひらにのせられた。



写真提供 紀南地域写真コンクール

区 分		月	火	水	木	金
内 科	1 診(初診)	奥野正孝内科総括 (磯部亮太医師)	奥野正孝内科総括 (野口正満医師)	中前 範子医師	武田 裕子医師 (北出 卓医師)	奥野正孝内科総括 (野口正満医師・磯部亮太医師)
	2 診 検診	小林 文人医長	野口 正満医長	小林 文人医長	北出 卓医長	磯部 亮太医長
	3 診(再診)	西久保公映副院長	西久保公映副院長 (11:00~)	西久保公映副院長	西久保公映副院長 (11:00~)	西久保公映副院長
	4 診(再診)		中前 範子医師		小林 文人医長 尾辻 典子医師	
						糖尿病専門外来(月1回) 住田 安弘医師 肝臓病専門外来(月2回) 三重大学医師 循環器専門外来(月1回) 山門 徹医師
外 科	1 診	乳腺専門外来(第1月曜日) 小川 朋子医師	須崎 眞副院長	野口 孝院長	野口 孝院長	須崎 眞副院長
整 形 外 科	2 診	加藤 宏之医師	加藤 宏之医師	加藤 宏之医師	藤井 武宏医師	藤井 武宏医師
	再 診	川喜田英司医長		川喜田英司医長	濱口 貴彦医師	濱口 貴彦医師
脳神経外科	初 診	濱口 貴彦医師		濱口 貴彦医師	川喜田英司医長	川喜田英司医長
	2 診	仲尾 貢二医長	仲尾 貢二医長	梶尾 廣医長	仲尾 貢二医長	脳ドック専門外来 仲尾 貢二医長
眼 科	1 診	久保 朗子医長 (第1・第3・第5休診)	久保 朗子医長	久保 朗子医長	久保 朗子医長	久保 朗子医長
産 婦 人 科	初 診	前沢 忠志医師	小林 良成医師	紀平 知久医師	前沢 忠志医師	小林 良成医師
	再 診	紀平 知久医師	前沢 忠志医師	小林 良成医師	紀平 知久医師	前沢 忠志医師
小 児 科	1 診	間宮 範人医長	間宮 範人医長	間宮 範人医長	間宮 範人医長	間宮 範人医長
皮 膚 科	1 診	嶋 聡子医長		嶋 聡子医長		嶋 聡子医長
神 経 内 科	1 診					木田 博隆医師 谷口 彰医師 成田 有吾医師 もの忘れ外来(月1回) 佐藤 正之医師
泌 尿 器 科	1 診			堀靖英医師(午後) 第2・第4は午前から		第1・第3(午後) 岩本陽一医師・西川晃平医師
耳 鼻 咽 喉 科	1 診				松浦徹医師(午前)	
歯 科 口 腔 外 科	1 診	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長
備 考	※ 受付時間は午前7時30分～午前11時30分までとなっております。ただし、急患については時間外でも受付します。なお、当院を初めて受診される患者様及び、診察券をお持ちでない患者様の受付時間は、午前8時からとなります。 ※ 整形外科・皮膚科の受付時間は午前7時30分～11時までとなります。 ※ 神経内科の診療は、現在 新規の患者様の受け入れが困難な状況です。内科・脳神経外科等へご相談下さい。 ※ 眼科は、第1・第3・第5月曜日は休診となります。 ※ 泌尿器科に受診を希望される場合は、かかりつけ医からの紹介予約が必要です。かかりつけ医にご相談下さい。					

たなばたコンサート

7月8日に当院総合受付前にてたなばたコンサートが開催されました。まず紀南病院コーラス部から、「夏の思い出」「サンタルチア」の二曲が美しいハーモニーで披露されました。そして、木本町で音楽教室をやっておられる速水直子さんとその生徒さん達による、ピアノの弾き語り等のミニコンサートが行われ



れました。速水さんはご自身で曲をつくられており、オリジナル曲を澄んだ歌声と抜群の歌唱力で披露され、訪れた観客を魅了しました。心をなごまされる生徒さん達によるかわいいダンスや歌の後、最後は全員で「たなばたさま」を合唱しました。心温まるコンサートでした。

